

# 文学部 地理学科

人文・自然の各分野にわたる豊富な専門科目と長い歴史

## 『地理学』、どう学ぶ?

地域文化の特色、それを育んできた背景について研究する **地域文化研究専攻**、  
地域の環境について多角的に考え、人と自然、社会との関わりを探究する **地域環境研究専攻**。  
駒澤大学地理学科での4年間を、先輩はどう学んだのか、お話を聞きました。 ※取材時の年齢です。

### 地域文化研究専攻

4年 高澤 海斗さん

人の文化について学べる学部を志望していました。地理学では「トマトの生産量はどのくらいか」ではなく「その地域ではなぜブランドトマトを作ったのか」という方向で深く掘り下げることができると知り、広い分野での学びができると思いました。



### 地域環境研究専攻

4年 櫻井 ころもさん

数学が苦手でしたが、理系の学びがしたいという思いを諦めきれず地理学を志望しました。地元が山梨県なので、富士山に関連する観光や防災、湧水について興味がありました。そのため特に「水文学(すいもんがく)」を学び、研究したいと思っていました。



### 地域環境研究専攻

4年 西田 圭吾さん

幼い頃から地図が好きだったことから、大学では地図について学びたいという漠然とした思いで地理学を志望しました。測量やリモートセンシング、GISなど文学部とは思えないほどPCを駆使するような理系の学びもある面が面白いです。



### 地域環境研究専攻

4年 真木 すずなさん

私は実家が北海道で、平成30年に発生した北海道胆振東部地震で被災しました。この地震は大規模な土砂災害、道内全体が停電するなど甚大な被害となりました。この地震がきっかけで地形に興味を持ち、地理学進学を決めました。



### 「地理学」を学ぶということ

駒澤大学 文学部 地理学科 小野 映介先生

「地理」というと、高等学校までの地形の名前を学んだり、地域の特産物を知ったりというイメージを持つ人が多いと思います。一方、大学の「地理学」では、そこから一歩踏み込んで、なぜその地形はできたのだろう、どうしてこの町の商店街は衰退しているのだろうかといった、現象の背景に迫ります。

地理学科には12名の専任教員があり、地理学としては全国屈指の指導体制をとっています。自然現象から人文現象まで幅広く学ぶことができるというのが最大の特徴でしょう。本学科では野外調査を重視しており、日本各地に出かけ、その土地に住む人々と接します。したがって社会との接点を有し、そこで得た経験は大学卒業後に必ず役に立ちます。



### 1年次 >> 幅広く「地理学」を学び、自分の学びたい方向を見極める。

経済視点・観光視点・地形視点など、総合的な視点で見ることが必要とされる「地理学」。必修の入門科目と実習科目によって、地域文化研究専攻・地域環境研究専攻の区別なく一緒に地理学の基礎を幅広く学ぶとともに初歩的な分析手法を修得し、2年次からの実習や演習に備えます。

さまざまなことに興味があったので、受講したい講義の幅も広く、1年生は多くの講義を受講しました。必修の授業で地元のハザードマップを見る機会があり、防災は多くの課題を抱えていることに気づきました。このことで私の興味は「湧水」から変わり、さらに「防災」に絞られていきました。



専攻に関係なく、色々な先生の授業をたくさん受けました。広い分野で学んだことで、2年次に「自分はこの分野の学びを広げよう」と考えられるようになります。一番印象に残っているのは駒沢オリンピック公園で昆虫や植物などをスケッチしたこと。これも地理学に繋がります。

担任制

1年次必修の実習は25人前後でクラス分けをし、その担当が1・2年次の担任となります。3年次は調査法、演習の担当教員、4年次は卒業論文の指導教員が担任となり、個別や少人数での指導を受けることができます。

### Course and Field Work Gallery



沖縄県久米島



新潟県十日町



新入生オリエンテーション

※2022年度実施の内容です。

履修してみたら、思った以上に面白い授業だったということがあります!少しでも興味がある科目は積極的に履修してみてください。興味があればしっかり学ぶことができる「環境の良さ」は駒澤大学地理学科ならではの強みです。



2年次  
どうだった?

### 2年次 >> 多彩な専門科目の中から各自の興味に応じて学びを深める。

自分が調査したい、研究したい分野を選択し、より専門性の高い学びを行います。選択必修だけでなく2年次から始まるゼミもあり、本格的にフィールドワークがスタートします。

### 3年次 >> フィールド調査を含んだ必修科目によって、野外での調査方法を習得する。

卒業論文を見据え、自分がやりたい研究テーマのためにはどんな学びが必要なのか、多角的な視点で物事を見ることが必要になります。

入学当初から卒業論文のテーマは北海道胆振東部地震と決めていたので、胆振東部地震を考慮したハザードマップと土地利用の変化について研究を進めました。3年次のゼミで北海道釧路市に現地調査に行き、大地震に対して実際にどのような防災対策が行われているのか、現地の方に直接インタビューを行うことができ、とても勉強になりました。



3年次  
どうだった?

防災について学びを深め、防災教育の重要性に気づきました。3年次には「企業の防災意識、防災教育」について調査しました。自分で一から調査の準備をし、多くの学びを得ました。調査の中で、防災教育が届きづらいのは社会人ではなく、大学生ではないかと疑問を持ち、卒論のテーマ「大学生の防災」につながりました。



3年次  
どうだった?

### 4年次 >> 3年間学んだことを基に、卒業論文に取り組む。

大学での学びの統括である卒業論文を通して、「地理学」の視点で物事を捉え、地理学科での学びがどのように実社会と結びついているのかを理解します。

専門科目+  
卒論で取得

地図の作成と分析を専門とする資格  
**GIS学術士**

コンピュータを利用した、地図の作製と分析を専門とする資格です。地理学科が指定する専門科目を修め、GISを用いた卒業論文を執筆することにより、日本地理学会にGIS学術士資格取得申請をすることができます。



ここだけの  
学び

気象予報士試験合格を目指す学生のための「ミニゼミ」  
**読天** とくてん (気象予報士勉強会)

読天では、1年次参考書を用いて基礎を学ぶので、高校で物理などをあまり学んでいない文系の人でも、先生や先輩のフォローのもとで取り組めるので安心です。2年次からは、過去問を解いていくことで、専門的な知識を身に付けていきます。全学年16名で、週に1~2日のペースで活動しています。その成果もあり、学科試験に合格する人も増えています。私は、卒業論文で「関東南部の局地的大雨」について研究したのですが、高層天気図の解析など読天で学んだ知識を活かして研究することができました。

地域環境研究専攻

4年 秋山 一真さん



私が所属する高橋 健太郎先生のゼミのフィールドワーク先だった新潟県十日町市の「女子スポーツ選手のプレー環境・過疎化対策・アートで地域コミュニティ」という地方創生の取り組みに共感し、「農山村地域における女子サッカーを通じたキャリア形成」というテーマで卒業論文に取り組みました。偶然出会ったテーマでしたが、将来は地域文化と環境を循環して守れるように地方創生に関わりたいと思っています。



十日町市での写真(高澤さん支給)

4年次  
どうだった?

